

ちいきせいかつしえんきよてんとう せいび む と く 地域生活支援拠点等の整備に向けた取り組みについて

ふくしじむしょ しょうがいふくしたんとう
福祉事務所 障害福祉担当

1. せいさくとう はいけい もくてきおよびこうか 1. 政策等の背景・目的及び効果

ちいきせいかつしえんきよてんとうは、しょうがいしゃ じゅうどか こうれいか おや な き あと を見据え、障害者の生活を地域全体で支えるため、居住支援のためのサービス提供体制を、地域の実情に応じて整備するものとされており、本市においては枚方市障害福祉計画（以下福祉計画）（第6期）の成果目標として、令和5年度末までに整備することとしており、効果的な整備に向けての取り組みを行うものです。

2. ないよう 2. 内容

ちいきせいかつしえんきよてんとう せいび とうしよこうせいろうどうしやう だい きしょうがいふくし けい 画の基本指針においての成果目標として、平成29年度末までに各市町村又は各圏域に少なくとも一つを整備することを基本とされていましたが、整備が必ずしも進んでいない状況を鑑み、期限が先延ばしされています。

ほんし せいび む うんえいけいたいとう じりつしきんきやうぎかい きやうぎ つづ 本市においても、整備に向け、運営形態等について自立支援協議会で協議を続けてきましたが、せいびほうしん けつてい いた らなかつたため、ふくしけいかく（だい 4 き）から福祉計画（第5期）へ順送りされ、更には福祉計画（第6期）の成果目標としてきどせつてい れいわ ねんどまつ せいび 再度設定し令和5年度末までに整備することとなっているもので、れいわ ねんどまつ せいび 市の整備に向けて、引き続き取り組みを行っていくものです。

(1) ちいきせいかつしえんきよてんとう もくてき きのう (1) 地域生活支援拠点等の目的・機能について

ちいきせいかつしえんきよてんとう しょうがいしゃ じゅうどか こうれいか おや な あと そな 地域生活支援拠点等は、障害者等の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるとともに、ちいきいこう すす じゅうどしょうがい たいおう せんもんせい ゆう ちいき 生活において、しょうがいしゃとう かぞく きんきゆうじたい たいおう はか ぐたいてき 2つの目的を持ちます。

① きんきゆうじ じんそく かくじつ そうだんしえん じっし たんきにゆうしやとう かつよう ① 緊急時の迅速・確実な相談支援の実施・短期入所等の活用

→ちいき せいかつ あんしんかん たんぽ きのう そな
→地域における生活の安心感を担保する機能を備える。

② たいけん きかい ていきやう つう しせつ おやもと ひとり く とう ② 体験の機会の提供を通じて、施設や親元からグループホーム、一人暮らし等

への生活の場の移行をしやすくする支援を提供する体制の整備
→しょうがいしゃとう ちいき せいかつ しえん
→障害者等の地域での生活を支援する。

更にその機能としては原則、次の5つの機能の全てを備えることとされていますが、地域の実情を踏まえ、必要な機能の判断は最終的に市町村が行うこととされています。

- ① 相談（地域移行、親元からの自立等）
- ② 体験の機会・場（一人暮らし、グループホーム等）
- ③ 緊急時の受け入れ（短期入所の利便性・対応力向上等）
- ④ 専門性（人材の確保・養成、連携等）
- ⑤ 地域の体制づくり（サービス拠点、コーディネーターの配置等）

（2）整備の形態について

地域生活支援拠点等の整備手法としては大きく2つに分類されています。

- ① 多機能拠点整備型
居住支援のための機能を一つの拠点に集約し、地域の障害者を支援するもの。
（例）グループホーム・ショートステイの併設施設を整備、相談支援センターの機能を併せ持ち、緊急受付や、コーディネイトを担う。
- ② 面的整備型
地域において、居住支援のための機能を持つ事業所が連携し、地域の障害者を支援するもの。
（例）緊急時の受け入れについては相談支援センターが輪番制で24時間体制の受付、コーディネイトを行い、登録事業者の短期入所等へとつなぐ。

（3）整備に向けた考え方

令和元年に大阪府から、地域生活支援拠点等の整備促進のために、まず取り組むべきこととして「緊急時の受け入れ・対応の体制づくり」を示し、地域の実情に合わせて段階的に取り組むことが示されました。

まず取り組むべきところは、対象者を事前に把握するとともに、緊急時にかかる相談受付を可能とし、その際の支援のながれを明確にしておくことというものです。

そのための手法としては①緊急時の定義づけ、②登録制の導入、③緊急時の体制確保に向けたネットワークの構築についての提案となっています。